

宮古の風

～ 新しい風は東から ～

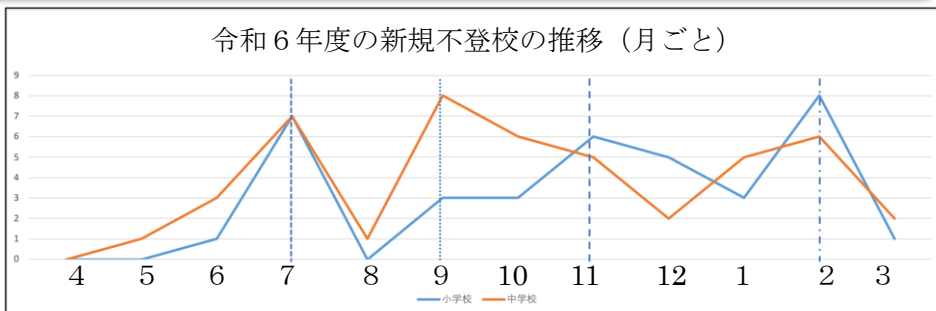


いよいよ 2 学期がスタートしました！日々学校にお邪魔させていただく中で、子どもたちの発想や創造力の豊かさに感動しています。そのような姿を引き出す先生方の授業運営にも感謝です。

文責：平澤傑

子どもたちの安心・安全な登校に向けて

管内の昨年度の不登校の推移（右図）を見ると、新年度開始から 2 ヶ月後、夏休み明け、11 月、冬休み明け、の 4 つのタイミングで学校に来ることができない児童生徒が増加する傾向にあります。今後も、引き続き子どもたちの様子を見取っていただき、先んじた支援や相談を通して、児童生徒が安心して学校に登校できる体制づくりをしていただければ幸いです。



児童生徒の実態に合わせた方策を！ ～全国学力・学習状況調査結果から～

全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学、理科）の結果が公表されました。各問題の平均正答率と標準偏差（ばらつきの大きさを示す値）などの数値に着目していただき、児童生徒のつまずきにに応じた指導改善を図っていただければと思います。当事務所では、管内の調査結果を分析し、目に見える学力向上だけでなく、不登校の未然防止、さらには学び続ける力の育成を目標にし、統計処理や質的な分析により、児童生徒に確かな力を身に付けさせる方策を提案しています。

①時間は短くても、“意味のある”家庭学習をする

管内では、1～2時間の家庭学習が最も効果が高いこと（県も同様の結果）、目的意識をもった家庭学習が学力と強い関連があることが明らかになっています。発達の段階に応じて、スモールステップを組み合わせながら、「やらせて出させる家庭学習」から、「できるようにする家庭学習」、そして「授業で効果を確かめる家庭学習」に移行することが重要です。

②児童生徒が解決したいと思う「問い」をもって意欲的に授業に臨めるようにする

管内では、学校生活に意欲的な子どもが多い一方、教科の学びが「楽しい」と感じたり、授業で自分から取り組んだりする回答割合に課題があることが示されています。子どもの学びの出発点は「もっと知りたい」という感情です。問いをもち、自分の言葉で思考を広げる姿を、日々の授業で共に目指したいと思います。

③思考・判断・表現を正しく評価できているか？を見直す

	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
知識・技能	72.3	58.1	53.1	49.6	43.5	493.5
思考・判断・表現	60.8	39	54.9	53.7	28.2	

↑数値は管内の平均正答率を示す（中学校理科は IRT スコアであり観点別評価結果は通知されません）

上の表から、算数・数学を中心に（次いで小学校国語）、思考・判断・表現の力に課題があることがわかります。要因の一つとして、知識・技能を評価するための問題で、思考・判断・表現を評価してしまっていることが挙げられます。小学校では業者テスト、中学校ではワークの問題が総括的評価に活用されることがありますが、それは「知識の再生の力」を評価しているかもしれません。ぜひ、MEXCBT（文部科学省 CBT システム）の問題を参考にし、思考・判断・表現の評価問題のモデルにいただければ幸いです。

岩手県小・中学校教育課程地区別協議会（宮古地区）

宮古西中学校を会場に8月1日（金）小学校の教育課程協議会が開催されました。7月31日（木）に予定しておりました、中学校の教育課程協議会は、津波警報・注意報発令に伴い中止いたしました。小学校は72名の参加のもと、各教科等の内容について、協議・演習を交えながら行いました。

現行の学習指導要領が実施となって、小学校は6年目、中学校は5年目となります。今年度の協議会は、令和6年度から8年度までの、新たな3年計画で実施する2年目の年です。

本協議会の目的は、「児童生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力の確実な育成に向け、必要な講義や演習及び研究協議を行い、子供を主語とした授業改善の一層の推進を図る。」こととしております。

ご承知の通り、令和3年中央教育審議会答申で示された「令和の日本型学校教育」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善により、児童生徒の資質・能力の育成を目指すこと、一人一人の子供を主語にした学びを実現していくことが求められています。

「子供を主語にした学び」は、教師の授業改善なくして成し得ません。

各教科等の指導にあたっては、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うとともに、子供が問いを持ったり、課題意識を持ったりして、子供が自走するような授業展開が求められます。

また、評価の場面や方法を工夫し、学習の過程や成果を評価し、授業の改善と学習評価の改善を両輪として行うことが大切です。

今回の協議会においては、各教科等における講義や演習、そして日々の各学校における実践を基にした協議を通して、児童生徒の資質・能力の確実な育成に向けた授業改善につながるものとなった様子が、参加者の感想から伺うことができました。

【小学校参加者の感想から】

- 今回の講義を受けて、授業づくりの仕方や評価の観点等詳しく知ることができました。特に学習指導要領の大切さを改めて実感しました。今までは、教科書や指導書中心の授業となっていたのですが、実際に指導要領を見てみると指導することが焦点化されており、教科書ばかりに頼る授業では良くないことに気づきました。
- ビデオ視聴は、授業の中でどのように資質・能力を育てていくかという点でたいへん意義でした。教師がどうやって教えたかではなく、子供たちがどのように学んだかが授業のあり方として求められることを学びました。
- 全国学力・学習状況調査の問題などを用いて「なぜできないのか」「どこに躓きがあるのか」を考えることは、自分の今後の授業を振り返る時にも、評価問題などを用いてできるものだと感じました。形成的評価の大切さを改めて考えることができました。
- 視聴した授業では、子供たち自ら実験の器具や方法を選択し、既習の内容や生活経験と関連付けて仮説を立てて実験をしていました。子供の「問いを見つける力」を育て、問いの追及に教師が付き合っただけというのでは、どの教科でも大切なことだと思います。

※以上、感想より抜粋

今回受講された各小学校においては、今回の協議会の内容について、説明会や伝講会等を確実に行っていただき、先生方で共有していただきますようお願い致します。

また、参加予定であった中学校の先生方におかれましては、全国教員研修プラットフォーム（Plant）に、コメント等を加筆して資料を再アップロードしておりますので、ご確認いただくとともに、来年度の教育課程協議会への希望参加をお待ちしております。